



白桜小だより

平成30年度 1月号
中野区立白桜小学校
校長 宇賀神 佳子
平成30年 1月 9日発行

新たな年を みなさまとともに

校長 宇賀神 佳子

新年あけましておめでとうございます。みなさまお健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年は白桜小もいよいよ開校10年目の年となります。記念式典など祝賀行事は11年目の年に行われますが、今年は11月に中野区学校教育向上事業の研究発表もあり、その中で少しずつ周年記念行事に向けて準備を始めていくこととなります。10年を一昔とよく言われますが、この10年間には、子供たちの成長やよさを様々に育ててきたことでしょうし、白桜小として、保護者や地域のみなさまと、学校との結びつきもさらに確かなものになってきたと思います。学校の歴史を、子供たちや保護者、地域のみなさまと共に一緒にお祝いできたらと切に望んでおります。

私事で恐縮ですが、私がかつて勤務した新宿区の学校で、大変お世話になった校長先生が齋藤秀子先生で、白桜小の前身、中野昭和小学校で長く教鞭をとられていらっしゃいました。当時の教え子が、まこと幼稚園の園長をなさっていらっしゃる佐々昌樹先生です。私の校長着任を齋藤先生にご報告したとき、「ご縁ですね」と大変喜んでくださいました。佐々園長先生も、お目にかかる度に当時の懐かしい思い出を話してくださり、一足先に人とのつながりの輪に加えていただいたような気がしました。また、現在教育相談に携わっていらっしゃる元桃花小学校校長井出良子先生も、中野昭和小学校にご勤務された経験がおり、東中野の商店街のみなさまに大変温かく接していただいた思い出を教えてくださいました。井出先生と地域のみなさまとのやりとりの話には、地域のみなさまが学校や先生方を思い、本当に優しく包んでくださっていた様子が浮かび上がり、私も励まされた思いがいたしました。地域のみなさまの学校への思いを引き継ぎたいと強く思いました。

この地に住む子供たちは、10年の間に白桜小としての思い出の中に生きてきました。そこにあるのは異口同音に、素直で優しく、まっすぐに伸びていく姿です。現実をよく勘案し、なすべきことをしっかりと深く考える姿です。友達を思い、共に生きようとする温かさに溢れた姿です。私は、こうした白桜の子供たちを誇りに思います。学校もまた、地域に愛される学校として、またグローバルな時代に生きる素地を養う学校として、変革を遂げ、また大きく成長しつつあります。教職員の異動はありますが、白桜を離れても、子供たちと共に生きた思い出を語り、優しいまなざしを注ぎ続けてくれています。

新たな年に力強く踏み出し、白桜の歴史をしっかりと刻んでいきます。今後とも本校の教育活動に深いご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

逞しく 歩を踏み出し 白桜の子 よさ輝かせ 新たまの年